

第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、令和2年度 第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和2年9月29日(火) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

「国有林材については、供給調整の必要がある」との結論に至った。

具体の対応策としては、「立木販売の公売を年間予定量の5割程度に抑える(分収林等を除く)」及び「素材の委託販売の一部を見合わせる」こととした。

なお、これら対応については、地域での原木需要実態を踏まえつつ行うこととした。

4. 主な意見等

- 例年に比べて製材工場の在庫は多い。9月に入り少しずつ動きが出てきたが、油断できない状況。
- 伐採事業や丸太の確保に際しては、中間土場も活用しつつ安定的に実施したい。
- 原木在庫は多い状態が続いているが、コロナ禍から通常に戻った時に結構な需要が出る可能性があると考えている。
冬場に生産された材は傷みにくいので、原木の確保に向かう工場もあるのではと期待している。
- 製材工場の受入れ制限がある。
国有林への要望として、請負の事業量を今まで通り確保してほしい。
一貫作業は大規模だと対応が難しいので、実態に応じた規模感としてほしい。
立木販売の再開をお願いする。

- 製材品の需要は、若干回復しているとの声もあるが、先行きは不透明。
北海道では原木管理費の助成及び民間建築物の道産材使用に対する助成を検討しているところ。

- 製紙需要は低いままだが、原料材についてはコロナの影響を受けていない
バイオマス発電にシフトして対応している。

- ホームセンター向けトドマツKD材の需要が多く、生産の中心となっている。
一方で、歩留まりが悪いため、生産量が増えても売上げは減っている。
国有林材について、材の出し方等を工夫すれば販売が進むのではないか。
春から夏の材は傷みやすいので、なるべく早く出した方がよい。

- 梱包材需要はここ1年近く下降傾向。米中貿易摩擦の影響が大きい。今の
ところ回復の兆しはないが、需要が戻るとあっという間に原木不足が生じる
可能性もあるため、状況を注視する必要。